

浄土宗西山禅林寺派

潮音寺だより

http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/ ナモの寺 検索
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁 10-11

第343号
平成24年5月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

choonji@aichi.email.ne.jp



【出典】『観無量寿経』爾時世尊 即便微笑
 「王舎城の悲劇」の中で、韋堤希夫人が大事なことに気づいてくれた時に出た、釈尊の微笑のこと。

撮影：超空正道

かつて
釈尊在世の時代

マガタ国の王妃
韋堤希夫人は

わが子
阿闍世の反逆に

苦悶のあまり

世尊に

救いを求めるも
ただ怒りと恨み
そして愚痴ばかり

しかし

我が身の
愚かさに懺悔し
弥陀の慈悲に気づいた
その時に

世尊は

につこり
微笑まれた

二つの微笑

当山のご本尊阿弥陀如来像は、あくまで伝承によれば、平安時代中期の恵心僧都源信の作とあります。詳しい経緯は不明ですが、先の戦災に遭っていて、光背は戦後に修復されたものです。



潮音寺本尊阿弥陀如来像

開山が天正十六年（1588）と
いうことですので、おそらく、相
当以前から当山に安置されている
ことは確かなようです。実に柔和
な相をされていて、私自身、これ
まで、難儀に遭ったときなど、仏
前に座りその尊容を拝することに
よって、ずいぶん救いをいただい

てきました。わずかに笑みをたたえておられるその顔は、如来の慈悲そのものを表しているといえます。ましよう。

仏典を読んでいますと、仏菩薩が微笑まれたという表現が、少なからず出てまいります。それぞれ深い意味を持つている場合が多く、以下、釈尊の仏伝より、二つの微笑についてお話しさせていただけます。最初は「即便微笑」です。

釈尊在世の時代、当時インドでは最強の国といわれていたマガダ国において、**王舎城の悲劇**と呼ばれる、大きな事件が起きました。王子であった阿闍世が、提婆達多（釈尊の従兄弟といわれ、釈尊に従って出家するも、妬みから仏教教団とは敵対していた）という悪友にそそのかされて、王位を得るために父王の頻婆娑羅を、餓死

させるべく幽閉してしまいました。王を氣遣い、王妃の韋提希夫人は、密かに食事を運びます。しかし、そのことが発覚するや、阿闍世は、母である韋提希をも王宮奥深くに閉じ込めてしまいます。

韋提希は、わが子の叛逆に苦悶して、釈尊に救いを求めます。この願いに応じ出現された釈尊に、韋提希は、地面に身を投げ出し、号泣し訴えます。

「私は、過去にどのような罪を犯したがため、このような悪い子を生んだのでしょうか。また、世尊はどのような因縁があつて、提婆達多のような悪人と親族なのでしょうか」と、先ず口に出たのは、恨みがましい愚痴でありました。

しかし、釈尊は、これには答えられませんでした。実は、阿闍世には、卜占によって殺人まで犯し

て授かったという暗い出生の秘密があつたのです。韋堤希は、そのようなわが身の罪を懺悔し、そして哀願するのです。「世尊よ、憂い悩むことなき世界を説いてください。もはや私はこの濁悪の世を願いません」と。

すると、釈尊は眉間から光を放つて、諸仏のさまざまな浄土を現出されました。そして、韋堤希は答えたのです。「私は、いま極楽世界の阿弥陀仏の所に生まれたいと思います」と。

その時です。世尊は「**即便微笑**」されたと、『**観無量寿経**』に記述されています。つまり、韋堤希が、釈尊の意図したとおり、懺悔し浄土往生を願うという菩提心を起したことに、にっこりと微笑まれたというのです。

次は、「**拈華微笑**」です。

中国宋代に無門慧開によって編集された公案集『無門関』に「世尊、昔、靈山会上に在つて花を拈じて衆に示す。是の時、衆皆な黙然たり。ただ迦葉尊者のみ破顔微笑す。世尊云く、吾に正法眼蔵、涅槃妙心、実相無相、微妙の法門有り。不立文字、教外別伝、摩訶迦葉に付嘱す」とあります。

こういうことです。釈尊が靈鷲山で説法をされていた際、花を拈り大衆に示したところ、だれもその意味が分からず、ぼかんとしていたが、ただ摩訶迦葉だけが、真意を知つて微笑んだ。そこで、釈尊は、後継者として仏教の真理のすべてを、摩訶迦葉に伝授したと云つたというのです。

史実云々は別として、この故事により、「言葉を使わず、以心伝心、心から心へ伝えること。あるいは、

伝えることができること」、これを「**拈華微笑**」といいます。

以上、二つの微笑についてお話しをさせていただきましたが、前者は釈尊の微笑み、後者は摩訶迦葉の微笑みということで、対象も状況も違います。しかし、共通しているのは、お互いが目と目を合わせ、言葉のあるなしを問わず、心が通い、意思の疎通がなされ、仏法の伝播がなつたとき、自ずと出た微笑み、それが**即便微笑**であり、**拈華微笑**であるといえます。私ども、仏像を拝する場合、当然のことながら、仏から直接言葉をいただけるわけではありません。時に、自分自身が韋堤希となり、その尊容から微笑みをいただき、また、時に摩訶迦葉となり、微笑み返しができるまでになれたら――。そうありたいものです。

◎有耶無耶

物質は有る、無い？ 死後の世界は無い、有る？ 仏教以前のインドの哲学大会は、ひたすらそのような机上の空論に熱中していた。

それを戒めたのが釈迦だ。そんな議論は、人間が生きることとは何の関係もないと、このような論争を無駄な行為とした。つまりは「有無を言わず」だったのである。

しかし、「有耶無耶」はこれとは逆。「有耶？ 無耶？」と論争するさまを表した語で、当然このような議論はあいまいな結果にしか終わらない。要するに最初から不毛の行為なのである。それから転じて、この語は、ある

今月の一言

人生 やり直し
はきかない
しかし 見直し
はできる

かないかをはつきりさせない、いいかげんな態度や状態を表すようになった。何事にもうやむやな人間には、有無を言わせぬ強引な姿勢が必要になる？

◎あなたまかせ

何事も誰かに押しつけ、自分では何も責任をとろうとしない投げやりな態度を表すことばになっているが、語源は熱心な仏教信仰のさまを表現したものである。

平安時代の末期に浄土宗を開いた法然は、ただひたすら「南無阿彌陀仏」と唱えれば、それだけで浄土に行くことができると説いた。この教えは、わかりやすさと実践が容易なために、たちまち貴賤を問わず人々の間に広まるのだが、いわばむずかしいことは考えず、ひたすら阿彌陀様にすべてをまかせて

信じ切るといっものが人気の原因だったといつていい。つまりは「あなたまかせ」。正確には、阿彌陀まかせとでもなるのだろうか。

しかし当時の民衆は、積極的な意志で仏にすがった。それに比べて現代の我々は、ただひたすら逃げよとばかりにあなたまかせにする。このような消極的なすがり方では、阿彌陀様もいい顔はしないだろう。

『仏教のことば』ひろさちや監修

雑記

▼菜園



桃太郎

先住職が、猫の額ほどの畑に、あまり上手とはいえない野菜作りをしておりました。それをどういっうわけが引き継ぎまして、キュウリにトマト、ジャガイモ……。

◆庭の隅声かけ植えし桃太郎 沐魚